

19世紀後半、ヨーロッパ各地でポスターや雑誌、家具や食器といった身の回りのものに、絵画や彫刻などと同じ「芸術」の

価値を見いだそうとする動きが高まりました。

本展では、そうした時代に生まれたデザイン作品の数々と、装飾的な要素を備えた絵画作品をあわせて紹介します。

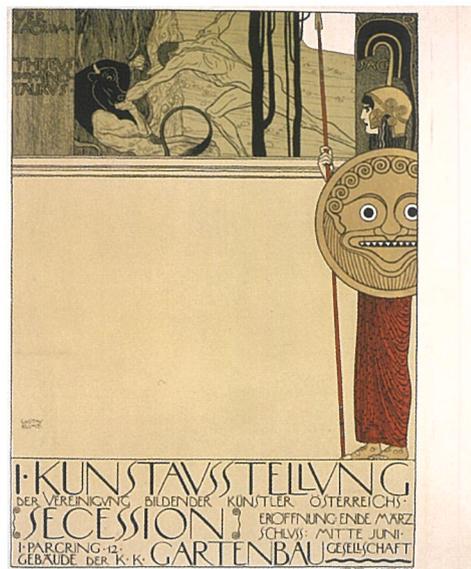
中心となるのは、19世紀末のウィーンで誕生した芸術家集団「ウィーン分離派」の機関誌『ヴェル・サクラム (Ver Sacrum)』。

オーストリア・ウィーン工房をはじめ、ドイツでも様々なデザイン活動が活発化した時代。

当時の芸術家・デザイナーたちが不安定な現実には抗いながら、古い慣習や価値観を脱し、新時代の芸術文化を確立させるべく切磋琢磨していた時代の雰囲気を感じ取っていただけると幸いです。



ヨーゼフ・ホフマン
《ブルカースドルフ・サナトリウムのサイドチェア》1904年



グスタフ・クリムト
《第1回オーストリア造形芸術家協会(ウィーン分離派)展》1898年

2026年2月8日〔日〕～5月10日〔日〕

宇都宮美術館

装飾と芸術のあわい

— ウィーン分離派の時代 —

令和7年度 第3回・コレクション展

- 会場：宇都宮美術館展示室1
- 開館時間：9時30分～17時（入館は16時30分まで）
- 休館日：月曜日（2月23日〔月〕、5月4日〔月〕は開館）、2月24日〔火〕、4月30日〔木〕、5月7日〔木〕
- ※入場にはコレクション展あるいは企画展のチケットが必要です。
- 同時期に開催の企画展：「北條正庸 風の旅」（2月8日〔日〕～3月29日〔日〕）、「ゴッホの跳ね橋と印象派の画家たち ヴァルラフ・リヒャルト美術館所蔵」（4月19日〔日〕～6月21日〔日〕）
- 主催：宇都宮美術館



フランツ・フォン・シュトゥック
《ミュンヘン造形芸術家協会(分離派)美術展》1905年
※3月22日〔日〕まで展示



ミヒャエル・ポヴォルニー《花器》1914年



ブルーノ・パウル《燭台》1901年

 宇都宮美術館
Utsunomiya Museum of Art

〒320-0004 栃木県宇都宮市長岡町1077番地
TEL.028-643-0100〔代〕/FAX.028-643-0895
ホームページ・アドレス ≡ <http://u-moa.jp>



@utsunomiya_moa



美術館公式HP